

2023年度 同和問題にとりくむ大阪宗教者連絡会議(大宗連)

事業計画 <基本方針>

「大宗連」は、人々を救い導く立場であるべき宗教者が、むしろ部落差別問題において差別の担い手であったことに気づかされたという大きな事実と反省から、在阪の宗教教団が各々の教えの根源に立ちかえり、部落差別を克服することを目的として、1982年に発足しました。

その目的実現のために、「大宗連」はこれまで多年にわたり、部落差別について啓発を進めると共に、加盟する教団・団体の啓発活動に共に取り組んでまいりました。

2022年2月に発生したロシアによる一方的なウクライナへの軍事侵攻は、一向に収束に向けての道筋が見えず混沌としています。その状況下で、多くの建物が壊滅的に破壊され、一般市民が身体的にも、精神的にも大きな犠牲を受け、傷ついています。暴力で、生命と財産を脅かす行為は重大な人権侵害です。昨年、「研究集会」では長崎を訪れ、戦争の悲惨さや残酷さを現地で再確認しました。私たち宗教者は絶対非戦の精神を新たにし、あらゆる場所での暴力行為を非難し、一刻も早く収束に向かうよう願い、人権問題の課題として風化させることなく、啓発してまいります。

新型コロナウイルス感染症が終息へ向かっているとの判断から、政府はマスク着用の自由化、感染症分類の変更等、「アフターコロナ」へ向けて舵を切っています。大宗連としても政府の方針に沿い、徐々に活動を活発化させていく必要があります。今回の新型コロナ禍を教訓に、私たちは大宗連結成の原点に立ち返り、これまで大宗連加盟教団の行ってきた啓発活動について点検し、理解を深め、いち早く差別のない社会の実現をめざすことが必要です。

以上のことから、今年度は、大宗連結成の「原点に立ち返り」、これまで大宗連として取り組んできたが「未だ解決が図られない部落差別問題への取り組み」を中心的な視点として、「大宗連」主催の行事はもとより、各加盟教団や関係諸団体主催の研修等への積極的な参加を推し進めてまいります。さらに、私たちは部落差別を中心とした人権に関わる諸問題についての学びを深めていくことを通して、一人ひとりがかげがえのない個人として尊重される社会となるために活動することを基本方針といたします。

2023年度 「大宗連」 役員・代表委員・専門部会・事務局

【役員】

議長	伊藤忠茂 (大本)
副議長	吉村誠治 (出雲大社教)
	四斗晴彦 (金光教)
	岡田浩信 (浄土宗)
	飯田祐子 (神社本庁)
常任委員	小西徹定 (高野山真言宗)
	高島保 (金光教)
	石田真住 (浄土真宗本願寺派)
	岩間和彦 (真言宗御室派)
	禿信敬 (真宗大谷派)
	佐々木義寛 (真宗興正派) (R5.6月末日に交代)
	中井賢隆 (真宗佛光寺派)
	公文孝枝 (新宗連同和推進連絡協議会)
	霊群徹全 (西山浄土宗)
	廣瀬文昭 (曹洞宗)
	山本道明 (天理教)
	尾島信之 (日本基督教団)
	太田幸彦 (日本聖公会)
	西正二 (念法真教教団)
	佐竹弘佳 (辯天宗)
	好野良博 (融通念佛宗)
	南谷恵敬 (和宗)
監事	青山信明 (金光教)
	磯晴久 (日本聖公会)
顧問	北浦徳次 (天理教)

【代表委員】

北浦徳次 (天理教)	同和問題解決 (部落解放)・人権政策確立要求 大阪実行委員会
関伽井啓三 (融通念佛宗)	(一社) 部落解放・人権研究所
三浦央 (真宗大谷派)	世界人権宣言大阪連絡会議
太田幸彦 (日本聖公会)	国際人権大学 (夜間) の実現をめざす大阪府民会議

【専門部会】

企画・研修部	大宗連事務局が兼務
広報部	青山信明 (金光教)

【事務局】

事務局長 伊藤香 (大本)